

Weekly Market Report

NAPHTHA C&F JAPAN

Price Data

C&F JAPAN (ドル/MT)

6月前半着	1085.75	(29.75)
6月後半着	1078.75	(27.50)
7月前半着	1072.75	(25.00)
7月後半着	1068.25	(23.25)
8月前半着	1065.25	(22.50)

22日午後6時時点の価格、()内は前週最終営業日との比較

OPEN SPEC NAPHTHA スポット取引プレミアム (ドル/MT)

(千葉到着ベース)	COUNT30 日前	COUNT45 日前
5月後半着	+ 15.00	+ 8.50
6月前半着	+ 13.25	+ 8.00
6月後半着	+ 10.00	+ 6.25
7月前半着	+ 6.75	+ 4.00

算出時の原油価格 (ドル/bbl)

取引所/銘柄	限月	
NYMEX/WTI	JUN	112.20
ICE/BRENT	JUN	124.55

Market Comment

前週のナフサ C&F JAPAN は 1075.75 ドルと続伸、クラックスプレッドは上昇。アジアの需給逼迫感が再確認され、リーマンショック以来の高値を更新した。クラックスプレッドも続伸している。

週初、前々週から続いていた堅調ムードに一服感が広がった。ナフサ価格が上昇するなか、石化製品価格は一向に上昇が見られずにクラッカーの-margin は悪化、インドネシアのチャンドラアスリや台湾のフォルモサがクラッカーの稼働を落とすとの報もあり、弱含みの展開となった。原油価格の上昇に追隨してナフサ価格が上昇すると、さらに-margin が悪化することから、クラッカーの減産が本格化すると懸念が高まっている。また、いくつかの中東のリファイナリーが定期修理に伴い稼働を停止していたことでスポット販売が見られなかったが、稼働を再開したことによりスポット販売を始めている。未だに定期修理で停止中のクラッカーもあるが、今後さらに稼働は再開するとナフサ供給が増加することが想定される。さらに、欧州市場からの裁定玉の流入も見込まれている。現在、欧州市場は逼迫した状態にあるものの、通常は供給過剰であることから徐々に逼迫感が薄れ、余剰玉がアジア市場へと溢れ出すことが見込まれた。これらのベアな要因から先安観が強まり、売り優勢から週前半は弱い展開となった。

しかし、週後半は再び盛り返す動きとなった。クラッカーの-margin は悪化する一方だが、実際に減産の噂があったのは一部のクラッカーのみであり、依然として多くのクラッカーは高稼働状況を維持している。また、旺盛なナフサ需要は引き続き見られており、エンドユーザーは高値でナフサを調達している。加えて中東のリファイナリーは、定期修理から稼働を再開し供給が増加しているにもかかわらず、ナフサのスポット販売は好調であり高値での成約が伝えられた。一方の欧州市場でも、堅調なガソリン市場を背景に逼迫した状態が続いている。欧州ではリファイナリーの定期修理シーズンを終え、徐々にリファイナリーが稼働を始めナフサ供給は増えているが、欧州の需給逼迫感は解消されていない。余剰玉が全く見られないことから、アジアへ玉が流れるはずもなく、アジア市場では需要に対し供給が追いついていない状態が明白となった。期近到着玉を中心に買い手が殺到し、ナフサ価格は再びリーマンショック以来の高値を更新することとなった。

今週のアジア市場は、需給逼迫を背景に引き続き堅調に推移するだろう。ただし、クラッカーの-margin の悪化は深刻化しており、上値の重い展開になる可能性がある。

Daily Chart

C&F JAPAN (ドル/MT)



Weekly Market Report

NAPHTHA MOF

Price Data

ナフサ MOF / 国産ナフサ価格予想値および評価値

	ナフサ MOF 価格				国産ナフサ価格	
	予想値 / 評価値			速・確報値	予想値 / 評価値	速報値
	ドル/MT	ドル/円	円/KL	円/KL	円 KL	円/KL
10-Oct	700.07	83.42	40,587	40,712		
10-Nov	747.36	81.39	42,273	42,222		
10-Dec	796.85	83.61	46,305	46,634		
10-4Q			43,079	43,101	45,100	45,100
11-Jan	857.45	82.91	49,410	49,202		
11-Feb	882.61	82.33	50,505	50,204		
11-Mar	891.37	82.49	51,101	(±0)		
11-1Q			50,120		52,100	(±0)
11-Apr	983.44	82.45	56,352	(10)		
11-May	1,046.48	81.77	59,473	(963)		
11-Jun	1,080.07	81.78	61,390	(171)		
11-2Q			59,072		61,100	(300)
11-Jul	1,078.45	81.80	61,308	(66)		
11-Aug	1,074.74	81.81	61,110	(90)		
11-Sep	1,072.08	81.83	60,973	(90)		
11-3Q			61,131		63,100	(100)
11-Oct	1,070.00	81.86	60,873	(74)		
11-Nov	1,068.07	81.88	60,783	(54)		
11-Dec	1,066.27	81.91	60,702	(26)		
11-4Q			60,786		62,800	(±0)
12-Jan	1,064.29	81.95	60,615	(8)		
12-Feb	1,061.86	81.98	60,504	(13)		
12-Mar	1,058.92	82.02	60,364	(14)		
12-1Q			60,494		62,500	(±0)

予想値は太字での表記

MOF(国産)価格の評価値は予想値ではなく 22 日午後 6 時時点での理論上の計算値

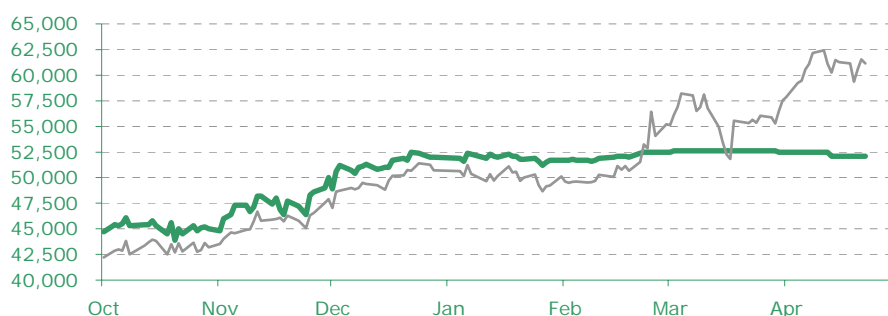
()は前週最終営業日の予想値および評価値との比較

換算比重は 0.695、

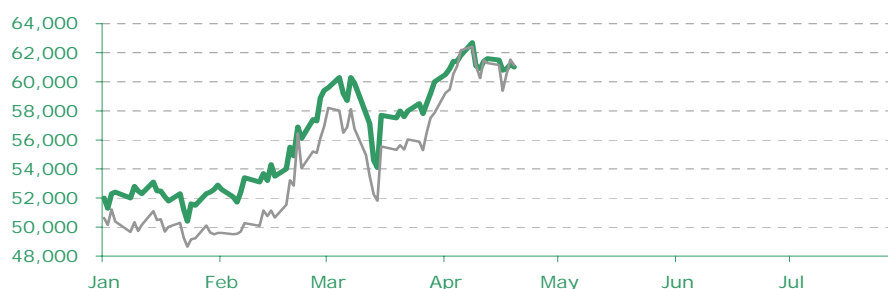
為替レートは実勢為替相場に基づいた通関レートおよび為替先物マーケットから算出

Daily Chart

11-1Q 国産ナフサ評価値/予想値(円/KL)



11-2Q 国産ナフサ評価値/予想値(円/KL)



太線は弊社予想値および評価値の推移(午前 10 時時点)

細線はナフサ C&F JAPAN に為替および比重(0.695)を乗じた数値の推移

Weekly Market Report

CRUDE OIL & OIL PRODUCTS

Price Data

Crude Oil (ドル/bbl)

取引所/銘柄	限月		前週末比
NYMEX/WTI	JUN	112.29	(2.07)
	JUL	112.75	(2.07)
ICE/BRENT	JUN	123.99	(0.54)
	JUL	123.63	(0.51)

Oil Products (セント/gal) (ドル/MT)

取引所/銘柄	限月		前週末比
NYMEX/RBOB	MAY	330.86	(1.94)
NYME /Heating Oil	MAY	319.92	(2.50)
ICE/Gas Oil	MAY	1014.00	(10.50)

Market Comment

前週の原油相場は反発。ドル安や株高、予想外の在庫減少を背景に買い優勢の展開となった。当限に回った WTI 期近 6 月限は、110 ドルを上回る水準で値位置を切り上げている。

週初は小安く始まった。サウジアラビアのヌアイミ石油鉱物資源相が、3月に日量80万バレルを超える減産を実施したことを明らかにした。世界の原油市場が供給過剰にあるとの認識を示しており、需給緩和感が意識され売りに繋がった。また、中国人民銀行が、インフレ抑制のために預金準備率引き上げを発表したことで、需給が引き締まるとの見方が後退したことも売りを誘った。加えて、米国債の長期格付け見通しが引き下げられたことで、リスク回避の動きが強まるとの見方も圧迫要因となった。5月限が納会を控えていたこともあり、利益確定の売りが集まり、一時105.50ドルまで値を下げる場面も見られた。

直近安値である105.31ドルを割り込むと、投げ先行から下げ足を速める可能性もあったが、週半ばからは基調が再び上向きに転換した。反発した主要因はドル安と株高であろう。欧州中央銀行(ECB)の追加利上げ観測が根強くユーロ買いが先行するなか、ハイテク関連を中心に米主要企業の好決算発表が相次ぎ、株価が上昇したことで逃避先としてのドル需要が後退した。ドル建てで取引されるコモディティに割安感が意識されるとともに、投資家心理がリスク選好へとシフトしたこともあり、コモディティ市場への資金流入が加速した。ドルは対ユーロで約1年4カ月ぶりの安値を付け、株式市場においては、NYダウが2年10カ月ぶりの高値を付けた。ドル安、株高、商品高のスパイラルが強まり、原油相場にも買いが集まった格好である。金相場は過去最高値を更新するに至っている。

これら一連の金融市場全般の動きにサポートされるなか、独自の需給ファンダメンタルズからの買いも入った。米エネルギー情報局(EIA)が発表した週間石油統計で、原油在庫は前週比232万2000バレル減と、事前予想の110万バレル増に反して減少した。7週ぶりの減少である。また、ガソリン在庫は予想とほぼ一致したものの取り崩しが進んでおり、中間留分在庫も大きく減少した。足元の需給に逼迫感はないものの、予想よりもブルな内容が示されたことで、市場のムードは強気に傾き、買いが促されたとみられる。

これらのブルな要因を背景に買い優勢となり、当限に回った6月限は112ドル半ばまで上昇している。11日に付けた期近ベースの直近高値である113.46ドルが意識されており、市場のコンセンサスは同水準を試すといった感が強い。連休を前にポジション整理中心の動きであったことから、新たに持ち高を増やす動きは限られたが、オープンインタレストの直近ピークであった頃に比べ5万枚ほど減少しているため、週明け以降は新たなポジション取りも想定される。ファンドを中心とした勢いのある買い方が、この高値水準で新たに買い乗せるのか否か、週明け後の動きを確認したところ。

Daily Chart

NYMEX/WTI 期近日足 (ドル/bbl)



Weekly Market Report

PETROCHEMICALS MARKET COMMENT

Aromatics

BTX/Styrene Monomer

前週のアジアのベンゼンマーケットは、FOB KOREA1200 ドルを上抜き強含みの展開。他の芳香族は、トルエンは1130ドルを挟んでの揉み合いから、週後半には原油高に連れて上放れている。一方のパラキシレン(PX)は、軟調地合い継続から一時1570ドルを割り込む場面も見られたが、週後半には他の芳香族同様に急速に値を戻し、1600ドル台を回復している。中国のポリエステルの生産が回復しつつあるが、依然として高純度テレフタル酸(PTA)が供給過剰気味であり、原料PXに対する引き合いは低調である。また、韓国のSオイルが来月に増設したPXプラントを稼働させる予定であり、PX需給は一段と緩むとの見方から売りが先行した。4月上旬の安値付近まで下落したが、その後は川上の原油相場の上昇を受け、売り一巡から急速に値を戻す動きとなっている。

アジアのベンゼン市況は、決め手材料難から方向性乏しく、前々週の揉み合いを継続する格好で始まった。中国政府が、インフレ抑制に向け利上げを実施したことで、需要が減少するとの見方から誘導品のカプロラクタム(CPL)市況が下落し、原料ベンゼンに対する引き合い低下が懸念され上値抑制要因となった。一方で、主要誘導品であるスチレンモノマー(SM)が堅調に推移したことが下値を支えた。シェルとBASFの合併であるシンガポールのエルバ・イースタンが前月22日から能力55万トン/年のプラントの稼働を中断していることに加え、イランのパルス石化も60万トン/年のプラントを今月10日に稼働中断した。域内のプラントが定修入りしていることもあり、供給減少見通しからの買いに支えられ、SM市況が1450ドル水準で小確りとした動きとなったことは、ベンゼン市況にとってサポート要因となった。誘導品サイドの強弱材料により、決め手を欠く格好となり、週前半は揉み合いを継続した。週後半に入ると、川上の原油相場が戻り歩調となったことを眺め、先高観からの買いが入り1200ドルを上抜き、2月下旬以来の高値水準へと値位置を切り上げている。トレンドを形成し得るだけの需給ファンダメンタルズ面からの決め手材料は乏しく、目先は原油相場次第の展開が見込まれる。なお、対ナフサとのスプレッドは、引き続き150ドルを割り込んでいる。ナフサとの相対比較からは割安感がある。

Olefins

Ethylene/Propylene

前週のアジアのエチレンマーケットは横ばい。川上の原油相場やナフサ市況は強含みの展開となっているが、C&F NE ASIA1380ドル台で特段目立った動きは見られていない。原料コストが急上昇していることで、マージンが大幅に悪化している。中国の利上げによる引き合い低下への懸念もあり、需給面からの買い材料に乏しい状況。

前週のアジアのプロピレンマーケットは小反発。FOB KOREA1550ドル水準へと小幅に値を戻している。上昇したものの、エチレン同様に原料高によるマージン悪化が鮮明な状況。定修明け後の供給増加見通しもあることから、上値の重い商状が続く可能性が高い。

Polymers

Polyethylene/Polypropylene

前週のアジアのポリエチレンマーケットは総じて軟調。低密度ポリエチレン(LDPE)はC&F NE ASIA1680ドル水準でほぼ横ばいだったが、直鎖状低密度ポリエチレン(LLDPE)は1380ドルを割り込み、高密度ポリエチレン(HDPE)は1380ドル水準へと小幅に値を下げた。買いが先行する場面も見られたが、弱気なファンダメンタルズに上値を抑えられている。引き続き在庫水準は高く、さらに日本のプラントの再稼働予定もあって、需給面は弱気を継続している。

前週のアジアのポリプロピレンマーケットは小幅高。HOMOグレードは一時C&F NE ASIA1650ドル台で小幅に上昇している。アジア域内のPP需要に大きな変化は見られていないが、欧州市場の上昇に連れ高している。ペトロラービグの70万トン/年のPPプラントが今月末に定修入りする予定で、リビアからのプロピレン供給不足を背景にエジプトのオリエンタル石化も稼働を上げられない状況にあり、欧州のPP需給が引き締まっている。アジアから欧州への玉の流出も想定され、確りとした動きとなる公算が大きい。

Polystyrene/ABS

前週のアジアのポリスチレンマーケットは小幅続伸。GPPSはC&F NE ASIA1590ドル。特段目新しい材料は見当たらないが、引き続き中国のEPS規制緩和や堅調な原料SM市況を受け、前々週の確りとした地合いを継続している。直近高値である1600ドル水準を上放れることが出来るかがポイントとなる。

前週のアジアのABSマーケットは続伸。シンガポールのエルバ・イースタンの稼働中断により供給不足が懸念され、原料ブタジエン市況の上昇がサポート要因となっている。ただし、中国政府がインフレ抑制策として利上げを実施したことから、家電向け需要などが落ち込むことが懸念されている。上昇したものの、節目の2300ドルが重く、同水準を上抜けるかに注目したい。

Weekly Market Report

FUNDAMENTALS & WEEKLY TOPICS

「2月のPMMA輸入単価、安値トップ10」

2011年2月のPMMA輸入実績は次のとおり。輸入数量は前月比144トン増の311トン、輸入価額は1億0280万円となった。原産地別輸入数量の割合は、シンガポールが26%、中国が21%、台湾が20%、韓国が16%、ドイツが15%となっている。価額を数量で割り返した2月の輸入単価(CIF JAPAN)の計算値は、前月比35円高の330円/kg。貿易統計上のPMMA統計値は、一般品と付加価値品との区別は出来ないが、税関別や国別に分けることで汎用性の高いグレードの輸入単価が概ね予想可能となる。貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ10は、下表のとおり。なお、2月の通関レートは、1ドル=81.76~83.42円、日数による加重平均値は、1ドル=82.33円。

税関	国名	2011年2月			CIF JAPAN		
		数量	価額		単価		
		(kg)	(1000円)	(円/kg)	(ドル/MT)		
東京	台湾	46,600	10,219	219	2,629	-	2,682
大阪	シンガポール	80,000	19,484	244	2,920	-	2,979
横浜	台湾	16,000	3,910	244	2,929	-	2,989
中部国際	香港	1,500	380	253	3,037	-	3,098
新潟	中国	54,000	14,214	263	3,155	-	3,219
横浜	韓国	45,000	12,076	268	3,217	-	3,282
大阪	ドイツ	18,000	4,851	270	3,231	-	3,296
横浜	米国	875	338	386	4,631	-	4,725
東京	中国	10,000	3,944	394	4,728	-	4,824
東京	ドイツ	10,000	4,053	405	4,859	-	4,957

(出所:財務省)

「2月のPOM輸入単価、安値トップ10」

2011年2月のPOM輸入実績は次のとおり。輸入数量は前月比269トン減の968トン、輸入価額は1億8328万6000円となった。原産地別輸入数量の割合は、米国が50%、タイが15%、台湾が9%、韓国が8%、中国が7%となっている。価額を数量で割り返した2月の輸入単価(CIF JAPAN)の計算値は、前月比18円安の189円/kg。貿易統計上のPOM統計値は、用途での区別は出来ないが、税関別や国別に分けることで汎用性の高いグレードの輸入単価が概ね予想可能となる。マーケットから大きく異なる輸入品は掲載対象から外す。貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ10は、下表のとおり。なお、2月の通関レートは、1ドル=81.76~83.42円、日数による加重平均値は、1ドル=82.33円。

税関	国名	2011年2月			CIF JAPA		
		数量	価額		単価		
		(kg)	(1000円)	(円/kg)	(ドル/MT)		
宇都宮	米国	270,438	33,674	125	1,493	-	1,523
清水	ドイツ	11,000	1,401	127	1,527	-	1,558
名古屋	中国	5,000	647	129	1,551	-	1,583
横浜	米国	121,600	18,436	152	1,817	-	1,854
四日市	タイ	51,000	8,049	158	1,892	-	1,930
川崎	タイ	81,000	12,865	159	1,904	-	1,943
横浜	オランダ	31,000	5,462	176	2,112	-	2,155
大阪	米国	8,000	1,481	185	2,219	-	2,264
名古屋	韓国	48,000	9,018	188	2,252	-	2,298
東京	タイ	17,000	3,234	190	2,280	-	2,327

(出所:財務省)

「2月のエポキシ樹脂輸入単価、安値トップ10」

2011年2月の熱硬化性樹脂のエポキシ樹脂輸入実績は次のとおり。輸入数量は前月比225トン減の618トン、輸入価額は3億5075万1000円となった。原産地別輸入数量の割合は、韓国が26%、マレーシアが22%、フィリピンが22%、台湾が18%、シンガポールが4%となっている。価額を数量で割り返した2月の輸入単価(CIF JAPAN)の計算値は、前月比8円高の567円/kg。貿易統計上のエポキシ樹脂統計値は、用途での区別は出来ないが、税関別や国別に分けることで汎用性の高いグレードの輸入単価が概ね予想可能となる。貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ10は、下表のとおり。なお、2月の通関レートは、1ドル=81.76~83.42円、日数による加重平均値は、1ドル=82.33円。

税関	国名	2011年2月			CIF JAPAN		
		数量	価額		単価		
		(kg)	(1000円)	(円/kg)	(ドル/MT)		
博多	台湾	33,000	8,186	248	2,974	-	3,034
清水	台湾	17,500	4,395	251	3,011	-	3,072
神戸	台湾	17,500	4,629	265	3,171	-	3,235
大阪	ドイツ	2,250	647	288	3,447	-	3,517
神戸	韓国	750	217	289	3,468	-	3,539
名古屋	韓国	77,000	23,043	299	3,587	-	3,660
大阪	イスラエル	10,000	3,000	300	3,596	-	3,669
東京	韓国	80,000	25,346	317	3,798	-	3,875
名古屋	台湾	10,325	3,703	359	4,299	-	4,387
門司	韓国	900	337	374	4,489	-	4,580

(出所:財務省)

Weekly Market Report

「2月の変性PPE輸入単価、安値トップ10」

2011年2月の汎用エンブラの変性PPE等輸入実績は次のとおり。輸入数量は前月比104トン減の1820トン、輸入価額は6億0310万6000円となった。原産地別輸入数量の割合は、米国が52%、シンガポールが20%、韓国が19%、台湾が4%、中国が3%となっている。価額を数量で割り返した2月の輸入単価(CIF JAPAN)の計算値は、前月比5円安の331円/kg。貿易統計上で税番3907.20.910はポリアセタール以外のその他のポリエーテルの変性PPEなどが該当する。変性PPEの統計として特定できないが、変性PPE等のポリエーテルの汎用性の高いグレードの輸入単価を税関別や国別に分けることで概ね予想可能となる。貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ10は、下表のとおり。なお、2月の通関レートは、1ドル=81.76~83.42円、日数による加重平均値は、1ドル=82.33円。

税関	国名	2011年2月			CIF JAPAN		
		数量	価額	(円/kg)	単価		
		(kg)	(1000円)		(ドル/MT)		
四日市	シンガポール	208,000	55,842	268	3,218	-	3,284
東京	中国	49,000	13,263	271	3,245	-	3,311
神戸	米国	19,455	5,309	273	3,271	-	3,338
東京	シンガポール	108,000	31,440	291	3,490	-	3,561
横浜	米国	209,701	62,505	298	3,573	-	3,646
東京	台湾	60,000	17,995	300	3,595	-	3,668
神戸	韓国	191,670	62,267	325	3,894	-	3,973
名古屋	韓国	152,760	50,134	328	3,934	-	4,014
東京	米国	703,894	235,783	335	4,015	-	4,097
博多	タイ	16,775	6,573	392	4,697	-	4,792

(出所:財務省)

「2月のフェノール樹脂輸入単価、安値トップ10」

2011年2月の熱硬化性樹脂のフェノール樹脂輸入実績は次のとおり。輸入数量は前月比316トン減の1232トン、輸入価額は3億6607万2000円となった。原産地別輸入数量の割合は、中国が44%、フランスが13%、韓国が13%、台湾が12%、ベルギーが10%となっている。価額を数量で割り返した2月の輸入単価(CIF JAPAN)の計算値は、前月比6円高の297円/kg。貿易統計上のフェノール樹脂は、用途での区別は出来ないが、税関別や国別に分けることで汎用性の高いグレードの輸入単価が概ね予想可能となる。貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ10は、下表のとおり。なお、2月の通関レートは、1ドル=81.76~83.42円、日数による加重平均値は、1ドル=82.33円。

税関	国名	2011年2月			CIF JAPAN		
		数量	価額	(円/kg)	単価		
		(kg)	(1000円)		(ドル/MT)		
名古屋	台湾	6,000	894	149	1,786	-	1,822
金沢	中国	3,000	451	150	1,802	-	1,839
名古屋	シンガポール	5,000	875	175	2,098	-	2,140
水島	韓国	9,000	1,699	189	2,263	-	2,309
御前崎	台湾	40,000	7,600	190	2,278	-	2,324
横浜	ベルギー	20,000	3,886	194	2,329	-	2,376
清水	インドネシア	40,006	7,921	198	2,373	-	2,422
名古屋	ベルギー	10,000	2,027	203	2,430	-	2,479
門司	ベルギー	20,000	4,087	204	2,450	-	2,499
神戸	ベルギー	6,000	1,234	206	2,465	-	2,515

(出所:財務省)

「2月のPPS、PI、PEEK、PSU等輸入単価、安値トップ10」

2011年2月のスーパーエンブラのPPS、PI、PEEK、PSU等輸入実績は次のとおり。輸入数量は前月比157トン減の1081トン、輸入価額は14億3960万1000円となった。原産地別輸入数量の割合は、米国が40%、ドイツが30%、台湾が8%、ベトナムが5%、ベルギーが4%となっている。価額を数量で割り返した2月の輸入単価(CIF JAPAN)の計算値は、前月比61円高の1332円/kg。貿易統計上で税番3911.90.030はPPS、PI、PEEK、PSU等のスーパーエンブラが該当する。各品目の統計として特定は出来ないが、同スーパーエンブラ類の輸入単価を税関別や国別に分けることで概ね予想可能となる。貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ10は、下表のとおり。なお、2月の通関レートは、1ドル=81.76~83.42円、日数による加重平均値は、1ドル=82.33円。

税関	国名	2011年2月			CIF JAPAN		
		数量	価額	(円/kg)	単価		
		(kg)	(1000円)		(ドル/MT)		
東京	ベトナム	58,800	11,733	200	2,392	-	2,441
博多	ドイツ	20,420	4,603	225	2,702	-	2,757
名古屋	台湾	84,000	20,076	239	2,865	-	2,923
神戸	オランダ	31,000	8,042	259	3,110	-	3,173
名古屋	中国	25,000	6,975	279	3,345	-	3,412
神戸	ベルギー	46,725	13,130	281	3,369	-	3,437
東京	フランス	9,750	3,510	360	4,316	-	4,403
横浜	米国	13,607	5,260	387	4,634	-	4,728
東京	中国	1,000	406	406	4,867	-	4,966
清水	ドイツ	58,000	28,834	497	5,959	-	6,080

(出所:財務省)

Weekly Market Report

「3月のABS樹脂出荷、前年実績を下回る水準 = 日本ABS樹脂工業会」

日本ABS樹脂工業会が発表した統計によると、ABS樹脂の3月の内需合計(同会加盟6社)は前月比957トン増の2万2053トンと再び増加した。前年同月に比べると4%下回る。用途別内訳は、車輛向けが前年同月比20%減と2ヶ月連続で前年実績を下回った。一般機器向けは同14%減と3ヶ月連続でマイナスとなり、その他向けは11ヶ月連続で前年実績を下回った。電気器具向けは前年同月比9%減と5ヶ月ぶりの前年実績割れ。一方、雑貨向けは同23%増、建材住宅部品向けは同29%増と3ヶ月ぶりにプラスに転じた。輸出は3ヶ月連続で増加し、前年同月と同水準。出荷合計は前年同月を3%下回った。

(単位:トン)

	用途						内需	輸出	出荷合計	耐候用
	車輛	電気器具	一般機器	建材住宅部品	雑貨	その他				
Oct-10	7,254	3,256	2,695	1,830	5,675	863	21,573	14,170	35,743	3,036
Nov-10	7,897	3,511	2,644	2,049	6,042	658	22,801	14,873	37,674	3,058
Dec-10	7,222	3,143	2,446	1,924	5,286	706	20,727	14,792	35,519	3,026
Jan-11	7,588	3,038	2,686	1,918	5,748	645	21,623	12,861	34,484	3,218
Feb-11	7,745	2,803	2,501	1,910	5,533	604	21,096	15,157	36,253	3,210
Mar-11	6,830	2,841	2,612	2,400	6,594	776	22,053	16,013	38,066	3,156

(出所:日本ABS樹脂工業会)

「塩ビ樹脂国内出荷、8ヶ月連続の前年同月比プラス = 塩ビ工業・環境協会」

塩ビ工業・環境協会(VEC)は20日、塩ビ生産・出荷(原料・樹脂)をまとめた統計を発表した。同統計によると、塩ビ樹脂(PVC)の3月国内出荷は、前月比3.4%増の9万5292トンとなった。前年同月比では3.3%増と、8ヶ月連続で前年実績を上回った。内訳は硬質用が5万1957トン(前年同月比3.8%増)、軟質用は2万5010トン(同1.1%増)、電線・その他用は1万8325トン(同5.1%増)とそれぞれ前年実績を上回った。輸出は前年同月比46.6%減の3万4851トンと、12ヶ月連続で前年実績を下回った。出荷合計は前年同月比17.4%減の13万0143トンと4ヶ月連続で前年実績を下回った。生産は前年同月比15.5%減の12万0692トンと、5ヶ月連続で前年実績を下回った。月末在庫は前年同月比6.9%減の7万6409トン。

塩ビモノマー(VCM)の3月国内出荷は、前年同月比12.9%減の12万9351トンと前年実績を5ヶ月連続で下回った。内訳はPVC用が12万2445トン(前年同月比15.0%減)、その他用は6906トン(同50.6%増)。輸出は8万2107トンと前月から35.9%増加したが、前年同月を5.7%下回っている。出荷合計は21万1458トンと再び増加したが、前年実績を10.3%下回った。生産は前年同月比13.7%減の21万2118トン。なお、月末在庫は前年同月比29.1%減の3万7405トン。

(単位:トン)

	PVC					VCM				
	生産	国内出荷	輸出	出荷合計	月末在庫	生産	国内出荷	輸出	出荷合計	月末在庫
Oct-10	146,638	93,117	49,531	142,648	83,667	238,722	153,709	79,412	233,121	48,518
Nov-10	138,481	94,731	52,604	147,335	74,813	239,834	145,284	78,011	223,295	43,117
Dec-10	142,038	86,584	47,631	134,215	82,636	269,330	148,434	80,358	228,792	54,134
Jan-11	142,917	88,102	48,412	136,514	89,039	261,708	150,225	96,384	246,609	58,420
Feb-11	138,971	92,176	49,974	142,150	85,860	223,519	145,556	60,430	205,986	54,024
Mar-11	120,692	95,292	34,851	130,143	76,409	212,118	129,351	82,107	211,458	37,405

(出所:塩ビ工業・環境協会)

「スチレンモノマー、国内出荷は3ヶ月連続で減少 = 日本スチレン工業会」

日本スチレン工業会が発表した3月のPS/SM需給統計によると、3月のPS生産は5万5674トンと前年実績を7%下回った。国内出荷は前年同月を3%上回る6万2089トンとなった。内訳を見ると、包装用は前年同月を5%上回り、FS用は12%上回った。電機工業用は19%下回ったが、雑貨・産業用は19%増とプラスに転じた。輸出は前年同月比47%減。出荷合計は6万3638トンと前年同月とほぼ変わらず。月末在庫は6万9254トンと前年同月を10%下回る水準。

一方SMは、生産は前月に続き減少したが、前年同月に比べると19%上回っている。国内出荷は10万3434トンと3ヶ月連続で減少し、前年実績を12%下回った。用途別では、主力のGP/HI向けは4ヶ月ぶりに前年実績を下回った。EPS向けは8%、合成ゴム向けは1%、UPER向けは25%、ABS向けは22%、その他向けは15%それぞれ前年同月を下回った。輸出は前月比32%増の14万2672トン。前年同月を29%上回っている。出荷合計は前年同月比8%増の24万6106トン。月末在庫は9万2286トンとなり、5ヶ月連続で前年実績割れとなった。

(単位:トン)

	PS					SM				
	生産	内需	輸出	出荷合計	月末在庫	生産	内需	輸出	出荷合計	月末在庫
Oct-10	56,991	56,328	2,350	58,678	75,274	260,367	123,647	141,476	265,123	97,410
Nov-10	51,835	61,362	1,805	63,167	63,942	235,435	128,246	128,649	256,895	79,678
Dec-10	60,038	59,723	1,047	60,770	63,210	292,968	133,794	152,858	286,652	86,780
Jan-11	66,190	54,434	1,824	56,258	73,142	275,411	130,609	136,494	267,103	98,907
Feb-11	63,654	57,396	2,182	59,578	77,218	249,286	129,653	108,327	237,980	108,231
Mar-11	55,674	62,089	1,549	63,638	69,254	235,071	103,434	142,672	246,106	92,286

(出所:日本スチレン工業会)

Weekly Market Report

「2月の韓国合成ゴム輸出」

韓国の2011年2月の合成ゴム輸出統計は以下の通り。

	数量 (mt)	価額 (US\$)	FOB KOREA (US\$/mt)	国別輸出量 TOP3		
				国	数量(mt) FOB KOREA	
SBR/XSBR ラテックス	6,700	7,388,969	1,103	中国	5,177	1,086
前月比	1	472,953	70	バキスタン	368	1,125
前年同月比	2,422	2,760,222	21	アラブ首長国連邦	380	1,061
SBR・XSBR	44,874	126,117,547	2,811	中国	9,575	2,823
前月比	340	7,141,489	179	インド	7,949	2,963
前年同月比	2,345	41,719,426	826	インドネシア	4,191	2,569
BR	24,893	87,456,211	3,513	中国	7,682	3,701
前月比	2,442	12,423,793	171	インドネシア	3,641	3,451
前年同月比	6,805	44,850,783	1,158	ベトナム	2,279	3,825
NBR ラテックス	3,900	5,382,402	1,380	マレーシア	3,137	1,389
前月比	4,708	6,186,823	36	中国	758	1,302
前年同月比	3,520	3,098,591	237	インド	4	8,889
NBR	9,221	29,178,092	3,164	中国	3,290	3,146
前月比	39	1,286,581	152	米国	1,304	3,108
前年同月比	2,858	13,922,311	767	インド	1,076	3,201
EPDM	5,147	17,190,640	3,340	中国	1,889	3,428
前月比	1,585	5,009,250	42	日本	710	3,122
前年同月比	269	3,544,991	820	インド	575	3,504

(出所:韓国貿易協会)

「“NAP MOF PRICE AVE+2000” INDEX = ナフサ輸入価格単純平均 + ¥2000/KL」

(単位:円/KL)

期間(3ヶ月)	輸入価格単純平均 + ¥2000/KL	Amerex 占有率	期間(6ヶ月)	輸入価格単純平均 + ¥2000/KL	Amerex 占有率
10 Oct - 10 Dec	45,200	0%	10 Jul - 10 Dec	43,900	0%
10 Nov - 11 Jan	48,000	0%	10 Aug - 11 Jan	45,100	0%
10 Dec - 11 Feb	50,700	0%	10 Sep - 11 Feb	46,800	0%
11 Jan - 11 Mar	52,200	33%	10 Oct - 11 Mar	48,700	17%
11 Feb - 11 Apr	54,600	67%	10 Nov - 11 Apr	51,300	33%
11 Mar - 11 May	57,600	100%	10 Dec - 11 May	54,200	50%
11 Apr - 11 Jun	61,100	100%	11 Jan - 11 Jun	56,600	67%
11 May - 11 Jul	62,700	100%	11 Feb - 11 Jul	58,600	83%
11 Jun - 11 Aug	63,300	100%	11 Mar - 11 Aug	60,500	100%
11 Jul - 11 Sep	63,100	100%	11 Apr - 11 Sep	62,100	100%
11 Aug - 11 Oct	63,000	100%	11 May - 11 Oct	62,900	100%
11 Sep - 11 Nov	62,900	100%	11 Jun - 11 Nov	63,100	100%
11 Oct - 11 Dec	62,800	100%	11 Jul - 11 Dec	63,000	100%
11 Nov - 12 Jan	62,700	100%	11 Aug - 12 Jan	62,800	100%
11 Dec - 12 Feb	62,600	100%	11 Sep - 12 Feb	62,700	100%
12 Jan - 12 Mar	62,500	100%	11 Oct - 12 Mar	62,600	100%

算出には22日18時時点のナフサ MOF 評価値及び予想値を使用。Amerex 占有率は上記算出における Amerex のナフサ MOF 評価値及び予想値の使用率を示す。

「東アジアの2月のナフサ輸入量」

台湾財務省は20日、2月の貿易統計を公表した。これにより東アジア4カ国(日本、韓国、中国、台湾)のナフサ輸入量が出揃った。4カ国合計の輸入量は前月比3.1%減の466万5265トンとなった。前年同月に比べると2.0%増加した。各国の輸入量は、日本が161万0612トン(前月比0.3%減、前年同月比7.0%増)、韓国が171万6428トン(同2.9%減、2.7%増)、中国が20万2203トン(同25.8%減、18.1%減)、台湾が113万5967トン(同1.7%減、1.3%減)。なお、3月の韓国のナフサ輸入量は2月に比べ15.7%減となること判明しており、日本も同輸入量は同程度の輸入減が予想される。

「高難燃性と高耐熱性を兼ね備えた変性PPE発泡ビーズを開発 = 旭化成ケミカルズ」

旭化成ケミカルズは15日、独自の樹脂開発および発泡加工技術により、世界初のUL94規格V-0を達成した変性ポリフェニレンエーテル(PPE)発泡ビーズ製品を開発したことを明らかにした。発泡ビーズを成形することで得られる発泡体は、樹脂に比べ軽量かつ断熱性を有する材料として、断熱材や緩衝材用途として幅広く用いられ、近年では自動車分野にてバンパー衝撃吸収材や自動車シートのコア材、フロアマット嵩上げ材等で実用化が進んでいる。一方、電子機器分野に関しては、樹脂に要求されるUL94規格V-0に適合する発泡ビーズが存在せず、難燃性や耐熱性の点から部材としての実用化が進んでいなかった。今回、同社独自の発泡加工技術を駆使し、非ハロゲン化組成において世界初となるUL94規格V-0を満たす発泡ビーズ開発に成功した。

「台湾で表面保護フィルム現地生産進出へ = 東レフィルム加工」

東レフィルム加工(TAF)は18日、台湾に表面保護フィルムの製造・販売会社を設立することを明らかにした。新会社名は東麗尖端薄膜股份有限公司で、今年5月に設立する予定。資本金は35億円で、東レフィルム加工が70%、東レが30%出資する。台湾高雄市の南部サイエンスパーク高雄園區に1003工場を新設し、ポリエチレンやポリプロピレン系フィルムを製造販売する。新工場は2013年1月からの稼働開始を予定し、同年夏までに生産能力を1万7000トン/年に順次拡大する計画。東レグループ・フィルム事業にとって、初めての台湾事業進出になる。なお、TAFは東レ94.41%出資からなる。

Weekly Market Report

「中国でプラスチック用添加剤のプラントを新設 = ADEKA」

ADEKA は 18 日、中国江蘇省常熟市の現地法人である艾迪科精細化工有限公司 (AFCC) にて、プラスチック用添加剤の生産設備新設を決定したことを明らかにした。新設を決定したプラスチック用添加剤の種類は高機能酸化防止剤で、生産能力は 1500 トン/年、2013 年 4 月の営業運転開始を予定している。投資額は 10 億円を予定。酸化防止剤は、新興国を中心に今後も大きな伸びが見込まれることから、今般中国での新設を決定した。高機能酸化防止剤の生産能力を増強し、性能優位性に加えコスト競争力強化をアップすることで、今後需要増が見込める中国やインドなどでの販売を加速させる。

「ペトロケムとの合併で新石化コンプレックス建設を計画 = SIIG」

サウジアラビア産業投資グループ (SIIG) は、同社 50% 保有の国営石油化学 (ペトロケム) と合併で、2012 年に石油化学コンプレックスの建設を計画している。投資額は 12 億ドルで、今後 9 ヶ月以内に合併企業が設立される見通し。ペトロケムは現在、約 130 万トンの石油化学を生産しており、同社の市場価値は 29 億ドルとみられている。サウジ基礎産業公社 (サビック) やサウジ・カヤン石油化学の市場価値は約 30 億ドルであることから、今回の合併によりサウジアラビア最大の石油化学会社が出来ることとなる。なお、SIIG とシェブロン・フィリップスの合併サウジ・ポリマーは、600 万トン/年規模の石化製品生産を第 4 四半期に開始する予定。

「合成ゴムプラントの拡張及び韓国タイヤと長期供給契約 = ランクセス」

独特化学大手ランクセスは 15 日、米国テキサス州オレンジの合成ゴムプラントを拡張することを明らかにした。1000 万ユーロを投じて 2012 年第 3 四半期の稼働を予定。ソリューション・スチレン・ブタジエンゴム (SSBR) およびネオジウム触媒ポリブタジエン (Nd-PBR) の生産能力を 2 万トン/年増強する。また、約 2000 万ユーロを投じての、米国、ブラジルの拠点での年間計 5 万トンの増強計画のひとつであるオレンジでのデボトルネッキングによる 1 万 5000 トン/年の Nd-PBR の生産能力の増強が完了したことも判明した。この他にランクセスは、韓国タイヤとの調印式を行い、SSBR と Nd-PBR の 2011 年から 5 年間の長期供給契約を締結したことも明らかにした。2007 年 5 月締結した 5 年の長期供給契約を 1 年前倒しで更新し、次世代のタイヤの製造に不可欠な高品質のブタジエンゴムを持続的に供給することになる。

「内需中心から輸出中心へ事業構造が転換 = SK グループ」

韓国石油化学大手 SK ケミカルなどを擁す SK グループは 17 日、製造分野の傘下企業が四半期ベースで過去最高の輸出額を記録したことを明らかにした。速報値ベースで発表された第 1 四半期の輸出額は 8 兆 9700 億ウォンに達し、これまでの内需中心から輸出中心へと転換していることが示された。石油製品と付加価値の高い化学製品輸出が好調で、通年の輸出額は 40 兆ウォンに達するとみられている。製造業分野の同四半期の売上高は 14 兆 5400 億ウォンであり、このうち 6 割強が輸出によるものであった。同グループの製造業分野は SK ケミカルのほか、SK エナジー、SK 総合化学、SK イノベーション、SK ルブリカンツ、SKC など。

「米国でオレフィン生産能力を拡張すべく投資する計画 = フォルモサ・プラスチック」

台湾石油化学大手フォルモサ・プラスチックは、米国の石油化学プラントの能力拡張のため 21 億ドルを投資する予定であるという。より豊富でより安価である米国の天然ガス資源を使用することを目的とし、米国政府の承認が下りるようであれば 2014 年後半までの完工を計画している。計画では、テキサス州ポイント・コンフォート工場のエチレン生産能力を 28% 増強し、207 万トン/年へと拡張する。また、プロピレン生産能力を 54% 増の 114 万トン/年へと増強する。

「BPA 生産能力拡張 = 錦湖 P&B 化学」

韓国化学大手錦湖 P&B 化学は、ビスフェノール A (BPA) の生産能力を 15 万トン増設し 45 万トン/年にすることが明らかとなった。アジア市場のポリカーボネートの需要増加により、原料として使用される BPA の供給を拡大するため、今回の増設に 1300 億ウォンを投資する。2012 年末に竣工予定。BPA は、家電製品、携帯電話、自動車部品用途のポリカーボネート樹脂の原料の他に、コーティング材料、電気絶縁材料、風力発電ブレード用途などのエポキシ樹脂原料として使用される。また、同社は BPA の原料となるフェノールとアセトンの生産能力も増強する計画があり、2013 年末に竣工予定となっている。増設後の能力は、フェノールが 70 万トン/年、アセトンが 40 万トン/年になる。

「2 万 4000 トン/年のポリシリコンプラント建設へ = OCI」

韓国化学大手 OCI は 20 日、約 1 兆 8000 億ウォンを投じ、2 万 4000 トン/年のポリシリコン第 5 プラントを全北セマングム産業団地に建設することを明らかにした。同プラントは今年の下半期に着工し、2013 年 12 月までに完成する予定。同社は昨年 12 月に生産能力 1 万トン/年の第 3 プラントを建設し、今年 10 月には第 3 プラントのデボトルネッキングにより能力を更に 1 万 5000 トン増強することを計画。また、2012 年第 4 四半期には、2 万トン/年の第 4 プラントの建設を計画している。第 5 プラント完成時には 8 万 6000 トン/年の生産能力を保有することになり、高まる高純度ポリシリコン需要に対応する。

「PX プラント着工へ = SK 総合化学」

韓国化学大手 SK 総合化学は 20 日、蔚山に 100 万トン/年のパラキシレン (PX) プラント建設を年内に着工することを明らかにした。韓国メディアによると、同社は JX 日鉱日石エネルギーと合併で 1 兆ウォンを投じ、2013 年までに新プラントを建設するための交渉を進めている。SK 総合化学は、蔚山に 75 万 8000 トン/年の PX プラントを保有しており、プラントが新設されると 175 万トン/年の生産能力を備えることになる。両社は以前から合併についての議論は交わしていたが、震災などの影響を受け計画が遅れていた。